


分野	51	環境共生
施策	512	生活環境の保全
5年後の目標	大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	環境監視事業		会計	款	項	目	3,534,955	環境政策室
			一般	4	1	7		
事業の概要								
大気・水質・騒音・振動等の状況について調査・把握・評価を行い、生活環境保全のための監視・指導を行います。								


平成29年度の取組							
D (取組)	指標	小畑川、小泉川の透視度:30cm以上、BOD:2mg/ℓ以下、PH:6.5~8.5の維持状況				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	(小畑川(井ノ内橋))透視度:27cm BOD:1.1mg/ℓ PH:7.9(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.7(平成26年度)	目標	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持	指標に掲げる状態の維持
	実績	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm BOD:0.7mg/ℓ PH:8.0(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9	(小畑川(井ノ内橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.8(小泉川(西代橋))透視度:30cm以上 BOD:0.5mg/ℓ以下 PH:7.9				
		<ul style="list-style-type: none"> ・大気、水質、騒音、振動等を委託及び自主検査により実施しました。 ・大気調査は67か所で調査を実施しました。 ・水質調査は地下水及び河川の15か所で調査を実施しました。 ・騒音調査では、環境騒音及び自動車騒音で31か所の調査を実施しました。 ・調査で得られた結果は、国や京都府などに報告するとともに関係部署にも提供し情報共有に努めています。 				<p>河川調査</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		小畑川・小泉川の主要河川水質指標	PH値(水素イオン濃度)6.5~8.5、BOD(生物化学的酸素要求量)2mg/ℓ以下です。		209
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大気調査は環境基準の超過はありませんでした。 ・農業用井戸のうち1か所で環境基準の超過が認められましたが、自然由来により超過することがあります。 ・河川のうち6か所で水素イオン濃度・BOD(生物化学的酸素要求量)・全亜鉛のなかの一部の値が一時的に環境基準を超過していましたが、水温・工場ならびに家庭からの排水等の影響で一時的に環境基準を超過することがあります。 ・騒音調査では5か所で一時的に環境基準を超過していました。 	
課題等	—				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全意識向上のためにも関係する機関と協力しながら、市民、事業者等への環境保全に対する理解を求めていく必要があり、今後も継続して生活環境保全のための監視・指導を行います。 ・環境基準を超過した項目については、京都府や関係部署にも報告を行い、情報共有しながら引き続き監視を続けます。

分野	51	環境共生
施策	512	生活環境の保全
5年後の目標	大気・水質、騒音などの環境基準が守られ、自然環境と調和した、快適で健康的な生活環境が保全されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	環境都市宣言啓発推進事業		会計	款	項	目	837,738	環境政策室
			一般	4	1	8		
事業の概要								
環境フェア等の実施を通じて、市民の環境活動への参加を促し、“環境の都”長岡京の実現のため取り組みを進めます。 また、西代里山公園を拠点に、環境活動団体がつどい、協働による環境まちづくりを進めます。								

平成29年度の取組							
D (取組)	指標	環境フェアへの参加団体・企業数				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32
	31(平成26年度)	目標	32	33	33	34	34
		実績	34	34			
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年11月18日(土)に第9回環境フェアを開催し、約800名の来場がありました。 広報等での募集を待たず、3団体から出展に関する問い合わせがありました。 新たな団体の参加により、イベントの内容の幅が広がり、充実したものになりました。 出展スペースには限りがあるため、取り組み内容に関連があるものについて、ブースの共同利用を行い対応しました。 参加団体それぞれの活動内容を知ってもらうことで、来場した市民に自分にはどんなことができるのかを考えるきっかけづくりができました。 アンケートに環境フェアへの来場を通じて家で実践しようと思った取り組みの項目を追加し、実践状況の把握に努めました。 					環境フェア 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 団体等からの出展の問い合わせが増えており、環境イベントとして環境フェアの認知度が上がっていることがわかります。 団体の解散や出展を取りやめる団体等がある一方、新たに出展を希望する団体も増加しています。 参加団体の活動内容は幅広く、また新たな団体等の出展によりイベントの内容の幅が広がっています。 各ブースでさまざまな取り組みをPRすることで、環境について知り、取り組む良い機会になっています。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 出展希望団体等が増えていますが、出展スペースや電力の確保の課題があります。 中央公民館及び市民ひろばを会場としていますが、参加団体に対してスペースがひっ迫しています。 レイアウトの見直しやブースの共同利用など、多くの取り組みを知ってもらうための工夫が必要です。 			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
1: 計画通りに進めることが適当	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> 環境フェアへの参加団体・企業数は平成34年度の目標に到達していますが、今後も計画どおり取り組みを進め、市民の環境活動への参加を促すとともに、環境への取り組みの実践を促します。 出展スペースの確保については、引き続きレイアウトの見直し、ブースの共同利用を進め、多くの活動内容を知ってもらえるよう対応していきます。